

地域再生に根ざした里山アートプロジェクトの効果

- 上勝アートプロジェクトの展開に向けて - *

The effect of the "SATOYAMA ART PROJECT" for local reproduction

- A study of deployment of the "KAMIKATSU ART PROJECT" -

花岡史恵**・澤田俊明***・田中紀子**・滑川達****・山中英生*****

By Fumie HANAOKA**・Toshiaki SAWADA***・Noriko TANAKA**・Susumu NAMERIKAWA****・Hideo YAMANAKA*****

1. はじめに

(1) 背景

近年、我が国の中山間地域においては、少子高齢化・後継者不足・地域経済の衰退などの悪循環が形成され、一層過疎化が進展し、各地で地域コミュニティ崩壊が進んでいる。徳島県上勝町も、過疎化が進行する典型的な中山間地域の町であり、昭和45年4,500人の人口が現在では2,100人にまで大幅に減少し、高齢化率も47%に達した。近年では、小中学生の一学年人口は10~12名程度にまで減少し、地域コミュニティ崩壊の危機的状況に直面している。このため、上勝町では持続可能な地域づくりを目的として、行政施策として町民の所得増大を目的とした「里山の葉っぱを活用した「彩(いろどり)産業」、国の構造改革特区を活用した「上勝町まるごとエコツアー特区」による農家民泊等の推進などの地域活性化施策を推進している。しかしながら、これらの取り組みは、現在まで一応の成果は得ているものの、上勝町の「人口減少」に歯止めはかからず、これまでの行政施策だけでなく、交流に着目した市民・行政・専門家の多重連携のもと、自立的・持続的地域づくりを目指したネットワーク構築に基づく、新たな視点での取り組みの必要性が要請されてきた。

*キーワード：地域再生、里山アートプロジェクト、参加・協働・連携

** 正員、(有)環境とまちづくり

(徳島県上勝町福原川北30番地 TEL0885-44-6290、FAX0885-44-6291、et-knkt@stannet.ne.jp)

***正員、博(工)、(有)環境とまちづくり

(徳島県上勝町福原川北30番地 TEL0885-44-6290、FAX0885-44-6291、et-knkt@stannet.ne.jp)

****正員、博(工)、徳島大学工学部建設工学科

(徳島県徳島市南常三島2丁目1番地 TEL088-656-9877)

*****正員、工博、徳島大学工学部建設工学科

(徳島県徳島市南常三島2丁目1番地 TEL088-656-9877)

一方、新潟県妻有地域では、新潟県の広域振興施策「ニューにいがた里創プラン」6つの施策の1つである「越後妻有アートネックレス整備事業」として、「越後妻有アートのトリエンナーレ大地の芸術祭」(以下、「妻有アートPJ」と略記)が、2000年から3年に1回の周期で開催されている。この取り組みは、単に芸術活動だけではなく、我が国の中山間地域の抱える諸問題に対応し、里山と芸術活動を繋ぐ新たな視点の「地域再生」に根ざした取り組み(以下、「里山アートPJ」と略記)の先進事例としても位置付けられる。筆者らは、2003年に開催されたこの芸術祭および2005年夏に開催された関連イベントについて、現地にて先進事例調査を実施した。これらを参考に、上勝町では、筆者等が所属する研究会を中心に、「上勝アートプロジェクト」(以下、「上勝アートPJ」と略記)が企画立案された。

(2) 目的

本研究では、「里山アートPJ」の先進事例である「妻有アートPJ」の取り組みにおける効果を整理し、今後の上勝町の「地域再生」を目指した「上勝アートPJ」展開に向けて考察を行うことを目的とする。

2. 先進事例調査(妻有アートPJ)

(1) プロジェクトの概要

「妻有アートPJ」は、妻有地域の里山全体を美術館と見なし、芸術作品を里山に点在させることで広域を繋ぎ、そこに関わる「人・もの・かね・情報・時間」等を繋ぎながら、地域再生に根ざした活動を展開している。以下に、「里山アートPJ」の先進事例である「妻有アートPJ」の概要を表-1示す。

表-1 妻有アートPJの概要

項目	内容
名称	越後妻有アートのトリエンナーレ 大地の芸術祭
主催	大地の芸術祭実行委員会
会期	・第1回芸術祭：2000年7月20日~9月10日(53日間)

会場	・第2回芸術祭：2003年7月20日～9月7日(50日間) ・第3回芸術祭：2006年7月23日～9月10日(50日間) 越後妻有：十日町市(2005年4月に十日町市・川西町・中里村・松代町・松之山町の5市町村合併)・津南町
作品数	・第1回芸術祭：148作品(ブレイク参加32ヶ国) ・第2回芸術祭：250作品(新作は157作品、残りの93作品は第1回芸術祭より継続展示、参加アーティスト23ヶ国) ・第3回芸術祭：200作品(参加アーティスト200組)
会期中来客数	・第1回芸術祭：約16万人/53日 ・第2回芸術祭：約20万人/50日
サポーター	・登録者数：約950人(2003年ヒアリングによる)
事業名	越後妻有アートネックレス整備事業
事業主体	新潟県・十日町市・津南町
総面積・人口	越後妻有全域：762km ² ・約77,000人
予算	・10年計画で、ソフト事業5億円、ハード事業11億円 ・県の補助が60%、残りの40%は各市町村の広域割り計算(30%は均等割り、残りは人口割り)により負担
計画期間	・第1回芸術祭：1996年～4年間(この間に約2,000回の説明会やWSを開催) ・第2回芸術祭：2000年～3年間(1年半で全体像をつかむ) ・第3回芸術祭：2003年～3年間(豪雪・地震等自然災害の苦難を乗り越え準備を行う)
補助金	・総務省・国交省・農水省・参加アーティストの国・宝くじ事業等
合併問題との関連	・新潟県では6市町村の合併を進めていたが、長野県境の津南町が独立宣言をしたため、5市町村が合併。 ・津南町は合併に関係なくアートトリエンナーレに参加。

(2) 地域再生に資する取り組みの特徴

2000年から3年周期で開催されている「妻有アートPJ」は、新潟県の広域振興施策「ニューにいがた里創プラン」の6つの施策の1つである「越後妻有アートネックレス整備事業」として実施されているもので、1996年から10年計画の事業として位置づけられている。この「妻有アートPJ」は、妻有地域全域をフィールドとして、芸術作品を点在させることで、広域を繋ぎ、作品づくりには、芸術作家を含む専門家と地域住民および都市住民等の協働を中心に実施している。これは、従来型の芸術作家による美術館展示や屋外彫刻展等とは違い、地域資源である「里山」を重要視し、作品づくりに作家以外の人に関わることによって、「里山」と「里山で生活する人の知恵」や「里山から学びを必要としている人の思い」を「芸術作品」で繋ぐ役割を担っている。

「妻有アートPJ」における地域再生に資する取り組みの特徴を表-2に示す。

表-2 地域再生に資する取り組みの特徴

取り組み	特徴
作品の点在	妻有地区の里山全体を美術館として捉え、参加者に、点在した作品を鑑賞させることで、作品と里山の一体化を体感させている 地域資源の有効活用・里山の価値発見
作品としての拠点施設や公園等社会基盤整備	芸術作品として、拠点施設の整備や公園・駐車場などの整備を行っている 公的資金の有効活用・社会基盤整備の芸術性・文化性の向上
農地活用	農地に作品展示することで、農の営み(水田等)そのものが作品として活用される

	生産農地の有効活用・農地の価値発見
廃校等活用	廃校となった校舎等に作品展示等を行うことで、地域で使われなくなった公共施設の有効活用を図っている 公共施設の再利用・新たな利用価値発見
空き家活用	空き家に作家の手が加わることで、空き家そのものが作品として活用されている 空き家再生・新たな利用価値発見
店舗等活用	商店街の空き店舗等に作品展示を行うことで、周辺商店街への活性化にも繋がっている 商店街の賑わい創出・経済活動の活性化
協働による作品づくり	作家、地域住民、都市住民、行政、各種専門家等の協働による作品づくりを展開している 都市農村交流・人の交流による地域活性化 自我関与による地域愛着心の醸成
活動連携	芸術作品以外に、地域の活動と連携した取り組みを行っている 地域活動の掘り起こし・伝統技術の継承

(3) 空き家活用の取り組み

2006年開催の「妻有アートPJ」では、空き家に焦点をあてた取り組みが行われている。空き家の活用および修復等に芸術作家が関わり、空き家そのものが作品として活用される取り組みである。また空き家オーナー制により、都市住民等が空き家の修復等を作家に依頼するなど、「連携・協働」に根ざした新たな取り組みが展開されている。「妻有アートPJ」における空き家活用の取り組みを表-3に示す。

表-3 空き家活用の取り組み

取り組み	概要
作品の常設展示	空き家に、作家の作品を常設展示し、入場料を徴収 入場料は管理費に充当する
作品の発表展示	空き家で、作家が交代で自分の作品を発表する場として活用 作家の交代で展示作品が変わる
作品展示と物産販売	空き家に、作家の作品を展示すると共に、作家発表の物産を販売 地域の高齢者等が物産販売を行っている
作品展示と宿泊施設	空き家と一体化した作家の作品を宿泊施設として活用 宿泊者が直接作品に触れられる・地域の人が宿泊施設の管理運営を行っている
芸術作家による改修	空き家の改修に、直接、作家が関わり、修復そのものを作品として活用 大学研究室等が、空き家を作品として表現している
空き家オーナー制	空き家のオーナーを募集し、改修費で空き家を作品として再生 オーナーと作家の協働により空き家が芸術作品として生まれ変わる



写真-1 作家による空き家改修(柱に彫刻を施す)

3. 上勝アートプロジェクトの概要

(1) プロジェクトの背景

「上勝アートPJ」は、上勝町が抱える過疎化の課題解決に向けた「地域再生」の一手法として展開するもので、筆者等が所属する「上勝環境デザイン研究会」（以下、「研究会」と略記）が、平成17年度に企画立案したプロジェクトである。

(2) プロジェクトの構成

本プロジェクトは、大きく3つの取り組みから構成されている。3つの取り組みの概要を表-4に示す。

表-4 プロジェクトの構成

名称	取り組み概要
参加交流型アート活動	上勝町内全域を活動フィールドとし、芸術作家・地域住民・都市住民・各種専門家・行政等の「協働」による作品づくり
参加交流型かみかき体験活動	地域住民による各種活動（例：竹細工・農作業体験・お祭り・晩茶づくりなどの体験活動等）のプログラム開発により、都市農村交流や地域活性化に根ざした活動として展開する
情報発信ネットワークづくり	上記の活動等を全国・世界に向けてPR広報するための情報発信ネットワークを構築する

(3) プロジェクトの経過と今後の展開

本プロジェクトは、平成19年度に徳島県で開催される第22回国民文化祭において、上勝町の活動として同名称で参加する。本プロジェクトは、国民文化祭を「きっかけ」として、「継続的な地域活動」として定着させるために活動を展開している。

平成17年度では、研究会が文化庁より受託した「都市再生プロジェクト推進調査」において、「参加型芸術活動による過疎地の持続的地域づくり展開」「芸術活動を介した市民・行政・専門家の多重連携による新たな交流創出」をテーマとして、過疎化が進展する上勝町において、市民・行政・専門家の多重連携のもと、自立的・持続的地域づくりを目指した「多重連携交流芸術活動」の基盤づくりを行う基礎調査を実施した。

また、上勝町では、新たな都市農村交流や地域活性化および地域環境整備のための社会実験プログラムとして、上勝町独自の手法による「上勝ワーキングホリデイ」が実施されている。平成18年度は、上勝町におけるこれら独自の手法を複合的に活用し、平成19年度第22回国民文化祭に向けての本格的な準備を展開する。

「上勝アートPJ」の経過と、今後の展開の模式図を図-1に示す。

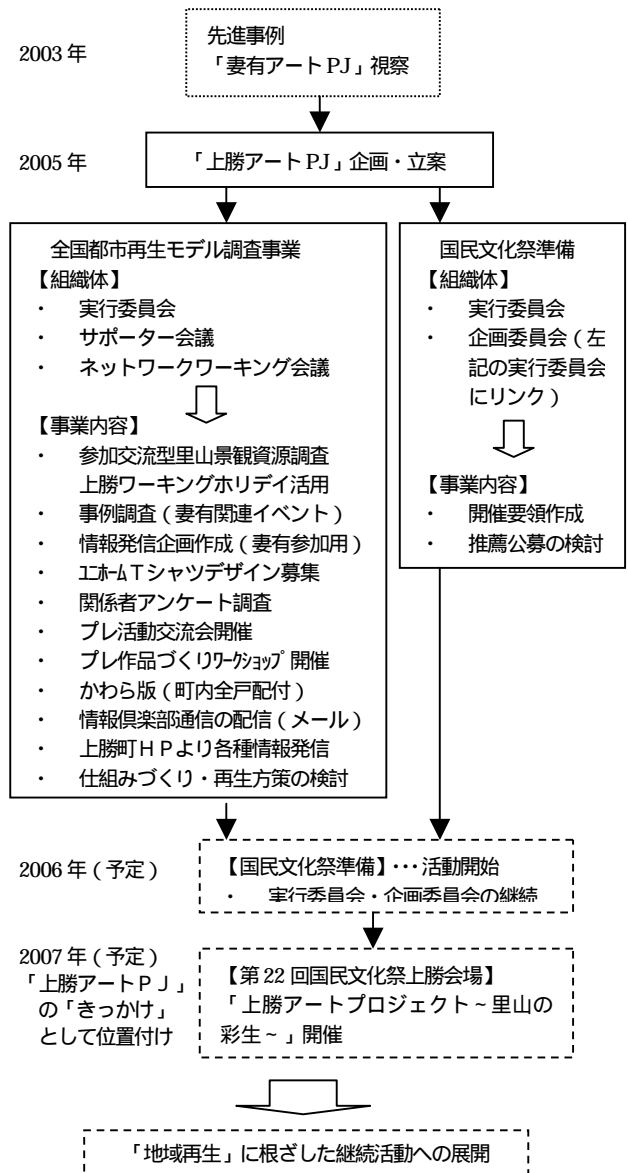


図-1 「上勝アートPJ」の経過と今後の展開

4. 地域再生に向けた里山アートプロジェクトの効果

「里山アートPJ」における地域再生に向けて期待できる効果について、「妻有アートPJ」の取り組みを参考に基礎的考察を行った。まとめを表-5に示す。

また、取り組みによる「地域再生」の効果を整理して、図-2に示す。

表-5 地域再生に向けた期待する効果

取り組み	効果
作品の点在	<ul style="list-style-type: none"> 里山における作品づくりを実際に見たり、参加・体験することで、地域資源の新たな価値を発見する 地域資源の新たな価値の発見が「自分の地域の誇り」に繋がる 点在した作品を鑑賞することで、里山体感の範囲が拡大する 里山体感の範囲が拡大することで、里山の新たな価値を学ぶ

作品としての拠点施設や公園等社会基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> 公共事業に芸術性が加わることで、文化的意識の向上に繋がる 公的資金の有効活用により、地域経済の活性化に寄与する 地元業者の介入 公共施設としての利用や活用が促進される リピート効果に期待できる 常設作品としての創作意欲が高まる
農地活用	<ul style="list-style-type: none"> 農地に作品展示が行われることで、生産農地が有効活用される 農地の有効活用により、農地の新たな価値を発見する 新たな価値の発見により、生産農地としての本来の活用の継続・継承に繋がる 農地に展示された作品を鑑賞・体感することで、農地そのものの価値や生産農地に対する意識が高まる
廃校等活用	<ul style="list-style-type: none"> 使われなくなった公共施設の有効活用への意識が向上する 普通っていた思い出の場所の再利用により、昔を懐かしむ癒し空間として再生される 使われなくなった公共施設の有効活用への意識が向上する 学校等の活用により、懐古的癒し空間として体感できる
空き家活用	<ul style="list-style-type: none"> 空き家の有効活用により、新たな雇用創出に繋がる 入場料や宿泊料の徴収により空き家の維持・管理費が捻出でき、それらにより、地域の人が管理運営を行う 空き家の持ち主においても、有効活用されることで家の維持管理に役立つ 宿泊施設としての利用が可能である 比較的安価で宿泊できることから、リピート効果に期待できる 空き家の新たな活用方法についての見解が広がる 空き家オーナーとしての参入に期待できる
店舗活用	<ul style="list-style-type: none"> 商店街の空き店舗等に作品展示されることで、商店街全体の賑わいが創出される 賑わいが創出されることで、商店街に人が集まり、活性化する 経済効果に繋がる 空き店舗等の作品巡りをすることで、商店街の新たな価値を発見する 賑わいを取り戻した商店街の楽しみを体感できる
協働による作品づくり	<ul style="list-style-type: none"> 作品づくりに直接関与することで、作品に対する愛着心が醸成される 愛着心の醸成により、作品への維持・管理に対する関心が高まる 協働・連携することへの理解が深まり、役所任せの公共ではなく、市民が参画する「新しい公共」という意識が生まれる 協働による作品づくりが行われていることを知ることで、自らの参加意欲の促進に繋がる
活動連携	<ul style="list-style-type: none"> 地域の活動や祭り等の掘り起こしを行うことで、地域資源の価値の再認識に繋がる 地域住民や作家、協働者が共に活動を行うことにより、都市農村交流、地域活性化に寄与する 都市農村交流、地域活性化が図れると、活動や祭り等の伝統の継承にも期待できる 地域の活動等を体験することにより、里山の新たな価値の発見に繋がる 体験により、新たな参加・参画についての意識が高まる

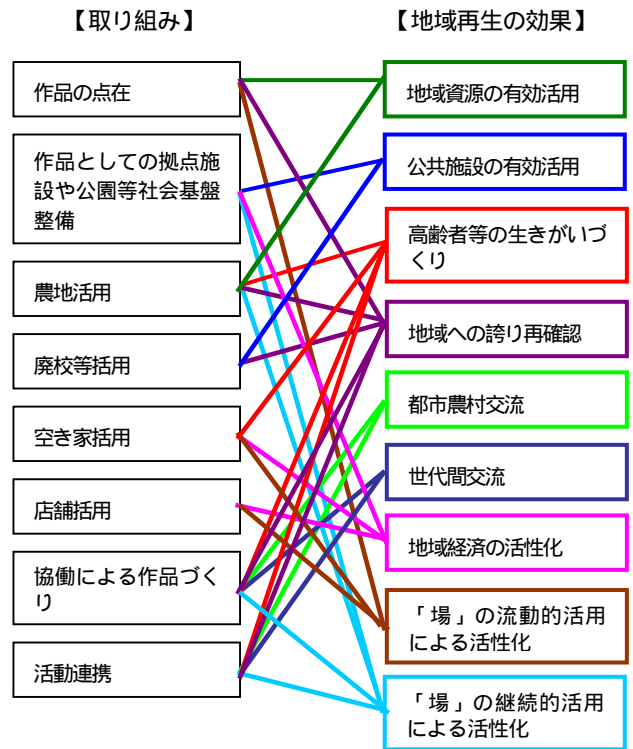


図-2 取り組みによる地域再生の効果

4. おわりに

本研究では、「里山アートPJ」の先進事例である「妻有アートPJ」における取り組みの特徴を整理し、平成17年度から活動を開始した「上勝アートPJ」の展開に向けて、「地域再生」に根ざした効果についての基礎的考察を行った。また、今後、「里山アートPJ」が抱える課題についても基礎的考察を加え、これから展開される「上勝アートPJ」が、地域再生の一手法として確立されるよう、引き続き研究を継続し、考察を行う予定としている。

また、他の手法による「地域再生」の事例についても調査を行い、「里山アートPJ」が与える「地域再生」に根ざした特徴的効果についての検証を行う予定である。

参考文献

- 1) 上勝環境デザイン研究会：平成17年度都市再生プロジェクト推進調査「上勝町での持続的地域づくりを目指した『多重連携交流芸術活動』の基盤づくり」報告書,文化庁,平成18年3月
- 2) 上勝町・日本建設コンサルタント(株)：平成15年度上勝町住宅マスタープラン推進事業委託報告書,徳島県,平成16年3月
- 3) 越後妻有大地の芸術祭実行委員会：大地の芸術祭 - アートトリエンナーレ 2000,現代企画室,2001
- 4) 越後妻有大地の芸術祭実行委員会：大地の芸術祭 - アートトリエンナーレ 2003,現代企画室,2004